

2018 目黒区美術館 館長トークⅢ

インド仏教美術のなかで、ブッダに関わる物語(説話)を主題とする造形作品は、紀元前1世紀初期頃から制作が始まり、インド仏教終焉の時代(12世紀)に至るまで、長期間に亘って広く受容され続けました。3回目となるこのプログラムでは、ブッダの誕生から80年の生涯を閉じるまでのエピソードを、インドの人々がどのように造形化して受け継いできたか、秋山光文館長が自ら現地で撮影した画像とともに辿ります。

ブッダの 生涯と美術

第1回

8月22日(水)
18:30~19:45

誕生から 出城まで

仏教の開祖・ブッダは、インド北部のシャークヤ(釈迦)族の王子としてルンビニ園で生まれたとされます。父親の国王は王宮に呼び寄せた仙人から、王子が出家しブッダ(さとりを得た人)になるとの予言を受け、世俗に接しないように王子を育てました。しかし、王子は王宮での生活に満足せず、ある晩密かに城を出て前正覚山へと向ったのです。



托胎夢 / 紀元前1世紀初め /
パールフット出土 / コルカタ・インド博物館蔵

第2回

8月29日(水)
18:30~19:45

正覚から 精舎の成立まで

山中での苦行からは真理を得ることは出来ないと知った王子は、下山してウルヴェーラー村に向かい、アシュヴァッタ樹(菩提樹)の下で瞑想を続けました。そして遂に完全なる真理を会得し、ブッダと呼ばれる存在となったのです。やがてブッダを慕う者たちから精舎(寺院)の寄進を受け、ブッダとその教団は次第に大きくなります。



初転法輪坐像 / 5世紀 /
サルナート考古博物館蔵

第3回

9月2日(日)
14:00~16:00

ブッダ最後の旅— 涅槃にいたる道

ブッダは80歳という高齢になるまで布教の旅を続けましたが、クシナーラ村において二本のシャラ樹(沙羅双樹)の間に遂に涅槃の時を迎えました。遺体は遺言に従って火葬にされ、遺骨は生前から関わりが深い8つの王国に分けられ、それぞれにこれを祀った仏塔(ストウパ)が建立されました(分舍利起塔)。



サンチー大塔 / 紀元前1世紀

●講師 / 目黒区美術館 館長 秋山光文

●会場 / 目黒区美術館 ワークショップ室 ●対象 / 高校生以上(各回定員50名)

聴講無料、要申込(先着順)

7月25日[水]から申込開始(*募集開始以前の申込は無効になります)

●申込方法 / *メール、ファックスまたはハガキに、希望講座名と希望回、お名前(ふりがな)、年齢、住所、電話番号(昼間に繋がる連絡先)、お持ちであればメールアドレスを明記の上、下記までお申し込みください。

*メールでのお申し込みの場合は、件名に「館長トーク」とご記載ください。

*募集開始日から先着順に受け付け、お申し込みいただいた日から7日目位を目途に、受付の返信をいたします。

*申込を締め切る場合は、当館ホームページにてお知らせいたします。

*同時開催の展覧会「フィンランド陶芸—芸術家たちのユートピア」(会期:7月14日[土]~9月6日[木] 10:00—18:00 月曜休館、ただし7月16日[月・祝]は開館し、翌17日[火]休館)をご覧になる場合、高校生以上は当日観覧券が必要です。

●申し込み先 / 目黒区美術館 住所:153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36

メールアドレス:mmat-event@mmat.jp ファックス:03-3715-9328

●問い合わせ先 / 電話:03-3714-1201(代表) 内容についてはこちらへ:03-3711-9558(学芸)